

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 宝塚大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
東京メディア芸術	メディア芸術	夜・通信	0	0	234	234	13	
		夜・通信						
看護	看護	夜・通信		新課程	新課程	新課程	13	
		夜・通信		0	52	52		
			旧課程	旧課程	旧課程			
			0	4	4			

(備考) 看護学部は、2022年度入学生より新課程へ移行。
なお、2017～2021年度入学生は旧課程。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>学生にはシラバスを配布するとともに、ホームページにおいて広く公表している。</p> <p>【東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/tokyo_jitumuka2024.pdf</p> <p>【看護学部】 (旧課程) https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/kango_jitumuka2024-1.pdf (新課程) https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/kango_jitumuka2024-2.pdf</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 宝塚大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/yakuinmeibo2024.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元新聞社 専務取締役	2024.4.1～ 2026.3.31	法人運営の推進及び組織運営体制のチェック
非常勤	弁護士	2024.4.1～ 2026.3.31	法人運営の推進及びコンプライアンスのチェック
(備考) ・理事7名中、学外者2名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 宝塚大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【東京メディア芸術学部】 カリキュラムの最終決定後、12月に個別の授業担当者へ授業計画(シラバス)の執筆作成を依頼。その際、詳細な執筆要領を配布し、要領に基づいた執筆を行うよう依頼している。1月上旬にシラバス原稿を締め切り、教務委員会が全科目の記載内容の適切性をチェックし、必要に応じて科目担当者と修正のやり取りが行われた。 3月に授業計画(シラバス)が完成し、新入学生及び在籍生全てに、新年度のガイダンスにおいてWebシラバスの形式で公表。また、大学ホームページにてWebシラバスを広く一般に向けて公表している。</p> <p>【看護学部】 教務委員会にて、10月初旬までにシラバスの記入要領の見直しを行い、教授会の承認を得ている。専任教員及び非常勤講師には12月初旬に、記入要領に沿ってシラバス作成の依頼を行った。各教員から提出されたシラバス原稿を、教務委員会と学務課職員で記入要領に沿った書き方がなされているか、学生にわかりやすい表現となっているか確認し、必要に応じて修正等の依頼を行っている。 完成したシラバスは、新年度のガイダンスで全在籍生にWebシラバスの形式で公表。新入学生には冊子の配布も行った。なお、大学ホームページにてシラバスのPDFデータを広く一般に向けて公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>【東京メディア芸術学部】 (ウェブシラバス) https://unipa.takara-univ.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.shtml</p> <p>https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/pdf/2024/tokyo.pdf</p> <p>【看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/pdf/2024/kango.pdf</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>【東京メディア芸術学部】 個別の授業科目に関する学修成果の評価は、授業中の学修に対する取組み姿勢（積極性や意欲）、試験やレポート、課題等の評価指標について、全ての授業科目において、用いる評価指標の割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。なお、授業科目にはそれぞれの到達目標により、評価指標の割合は一律に定めることができないため、その配分については授業科目担当教員が行なっている。</p> <p>【看護学部】 全ての授業科目において、成績評価の対象となる項目を全て挙げ、合計100%となるよう、各項目の評価割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。また、より厳格かつ適正に評価を行うため、2019年3月及び11月に「ルーブリック評価」、2021年1月に『臨地実習におけるルーブリック評価の実践事例と作成法のコツ』、2021年度に「カリキュラム編成セミナー（5回）」のFD研修を実施している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【東京メディア芸術学部・看護学部】（共通） 成績評価における客観的指標として、下記の方法でGPAを算出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期 GPA = $4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学期における総履修登録単位数で除した数値 ・学年 GPA = $4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学年における総履修登録単位数で除した数値 ・通算 GPA = $4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を在学中の全期間における総履修登録単位数で除した数値 <p>(東京メディア芸術学部の運用) 上記の式で算出されたGPAを用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び学生の学習意欲の向上のために活用している。</p> <p>(看護学部の運用) 上記の式で算出されたGPAを用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び教学改善に活用している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>■成績評価における客観的な指標の算出方法</p> <p>【東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/tokyo_gpa2023.pdf</p> <p>【看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/kango_gpa2023pdf</p> <p>【客観的な指標=GPAの算出方法】（学部共通） https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/gpa_sanshutsu.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【東京メディア芸術学部】

「卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士(芸術学)の学位を授与する。

1. 主体的行動力

自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。

上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。

卒業認定は、担当専任教員によって構成される卒業判定会議を開催し、個別の学生の学修状況を報告、別にかかれる教授会において審議のうえ決定される。

【看護学部】

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。

・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。

・アートを生かした癒しの看護が実践できる。

・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。

・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。

卒業認定は、看護学部専任教員によって構成される教務委員会を開催し、学生の学修状況を個別に確認を行い看護学部教授会へ上申し、看護学部教授会において審議のうえ決定される。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>【ディプロマ・ポリシー】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/diploma.html</p> <p>【卒業要件・東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/academics/tuition/index.html</p> <p>【卒業要件・看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/kango/academics/tuition/index.html</p>
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 宝塚大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/R5_taisyakutaisyouhyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページにて公表 (資金収支計算書) https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/R5_shikin.pdf (活動区分資金収支計算書) https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/R5_katsudokubun.pdf (事業活動収支計算書) https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/R5_jigyokatsudo.pdf
財産目録	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/R5_zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/R5_jigyouhoukokusyo.pdf
監事による監査報告(書)	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/R5_kansa.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：

https://www.takara-univ.ac.jp/about/evaluation/accreditation/pdf/self-inspection_r5.pdf

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

<https://www.takara-univ.ac.jp/about/evaluation/accreditation/index.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/goal/index.html) (概要) 教育理念：人間の「生きる力」を支える、心に働きかける芸術と看護教育 〔豊かな感性をもつ〕 自然の美や芸術とともに、人の心や気持を感じることができる人間を育成する。 〔深い理解力をもつ〕 さまざまな学問を学ぶとともに、よく考えることを通じて深く理解できる人間を育成する。 〔高い実践力をもつ〕 感性と理解力を活用して、課題に取り組み実践していくことができる人間を育成する。
教育研究上の目的 【東京メディア芸術学部】 美術及びメディア芸術に関する基礎的教育を施すとともに、マンガ、アニメーション、ゲーム、イラストレーション、コンテンツデザイン及び映像に関する理論及び表現について、深く教育研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。 【看護学部】 看護・保健の職務の実践に必要な知識、技術及び能力と幅広い教養を修得し、保健・看護・医療の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/diploma.html) (概要) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) 宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 【東京メディア芸術学部】 卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士 (芸術学) の学位を授与する。 1. 主体的行動力 自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。 2. 表現力 自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。 3. 社会貢献力・コラボレーション力 組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することがで

きる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。

【看護学部】

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。

・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。

・アートを生かした癒しの看護が実践できる。

・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。

・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/curriculum.html>)

(概要)

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

【東京メディア芸術学部】

本学部では、建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力及び専門性を修得させるため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

◆教育課程編成の方針

1. メディア芸術に関する基礎的知識の修得と職業意識の醸成、コミュニケーション力及びコラボレーション力の育成を行い、実社会で活動するための知識や技能の基礎を築くことを目的に、初年次教育の科目群を設定する。
2. 現代社会の要請を的確に捉え、思考の方法や行動の原理を理解するための基礎となる、汎用的な能力や社会的規範の修得及び多様な文化の理解を目的に、「基礎科目」「外国語科目」の科目群を設定する。
3. メディア芸術の素養を身につけた人材として、社会において活躍するために求められる、体系的な専門的知識や技能を育成することを目的に、「専門科目」の科目群を設定する。
4. 大学での学修を実社会と接続させる実践的体験を通して、学修の意義を認識し、社会において活動する意欲と能力を育成することを目的に、ゼミ活動や学外連携活動を設定し、単位を付与する。
5. 本学科での学修により得た知識や技能を統合し、自らの思考を表現、発信する能力を育成することを目的に、「卒業制作及び論文」を必修科目として設定する。

◆実施の方針

1. 各授業科目において、授業の目的、到達目標、ディプロマ・ポリシーとの関連、各回の授業内容、成績評価基準を明確にして周知する。
2. 主体的に問題を発見し、それを解決するために協働し、自らの思考を他者に伝える力を育成するために、多様な教育方法に対応した教室環境を整備し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入するなど授業形態や教育方法を工夫する。
3. 大学での学修が実社会と接続していることを認識させるために、自治体や地域の団体等と連携した活動を積極的に実施する。
4. 授業の双方向性を高めるために、学生から提出された課題や制作物へのフィードバックを積極的に行うよう努める。
5. 教育課程の有効性について、学生の履修状況、単位修得状況、学生への各種アンケート調査及び教職員などへの調査に基づいて点検し、評価する。

◆教育評価

1. 1年次修了時に、自身の興味・関心や学修状況に基づき、2年次以降の専門分野を教員と話し合う専門選択面談を行う。
2. 3年次修了時に学修の到達度や成果に基づき、卒業制作や卒業論文に取り組む基礎能力の修得が完了しているかどうかの到達度評価を行う。
3. 4年次において、本学科での学修の成果を統合する「卒業制作及び論文」を必修とし、評価担当教員において評価基準に基づいて公正に評価する。

【看護学部】

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置

づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

『2022年度入学生以降』（新課程）

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。
2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。
3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。専門分野は、「看護とアート」「看護の基礎」「看護の発展」「看護の実践」「看護の統合」に分類する。「看護とアート」では、癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。「看護の基礎」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護の発展」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の実践」では、9領域の看護学実習科目を配置する。「看護の統合」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。
4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。
5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

『2017～2021年度入学生』（旧課程）

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。
2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。
3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領

域」「看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、8領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/admission.html>

（概要）

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、高等学校等における学修を通して基礎学力を身につけ、幅広い教養と高い専門性を求めようとする、向上心・探究心を持っている人を受け入れる。

【東京メディア芸術学部】

本学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を行う条件として、次のような能力や意欲を備えた人物を求める。

1. 高等学校卒業レベルの基本的能力を備え、積極的にメディア芸術を学修する意欲を持つ人
2. 高等学校等の教育課程外（部活動やボランティア活動、社会貢献活動等）においても主体的に活動し、知識や技能を身につけてきた人
3. 明確な目的意識や目標を持ち、社会に貢献する意欲を持つ人
4. 社会の規範を遵守し、メディア芸術分野の知識や技能を用いた表現への意欲を持つ人
5. 計画性をもって他者と協力し、物事に取り組もうとする人
6. 知識や経験を基に理論的に判断し、物事を表現する意欲を持つ人

【看護学部】

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解
入学後の就学に必要な基礎学力を有している。高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 思考・判断
さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。
3. 関心・意欲
人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。
4. 態度
豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。
5. 意欲
看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。
6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/data/index.html>

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
東京メディア芸術学部	－	6人	7人	3人	4人	0人	20人
看護学部	－	10人	4人	10人	8人	0人	32人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		125人					126人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 【東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/tokyo_teacher.html 【看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/kango/academics/teacher/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
各学部の2023年度FD実施状況は以下の通りである。 【全学FD】 2023年4月「2023年度事業計画について」 2023年7月「大学（高等教育）における合理的配慮の提供について」 【東京メディア芸術学部】 2023年9月「画像生成AIの近況と教育への応用」 2024年3月「授業評価アンケートを用いた教育・授業の改善について」 【看護学部】 2023年6月「ハラスメントにどう対応するか～架空事例で考える～」 2023年6月「科研費申請」 2023年8月「看護学生における合理的配慮について」 2023年9月「看護OSCEについて」							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
東京メディア 芸術学部	130人	135人	103.8%	520人	526人	101.2%	欠員の範囲	2人
看護学部	100人	88人	88.0%	400人	398人	99.5%	0人	0人
合計	230人	223人	97.0%	920人	924人	100.4%	欠員の範囲	2人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
東京メディア 芸術学部	123人 (100%)	7人 (5.7%)	90人 (73.2%)	26人 (21.1%)
看護学部	99人 (100%)	3人 (3.0%)	79人 (79.8%)	17人 (17.2%)
合計	222人 (100%)	10人 (4.5%)	169人 (76.1%)	43人 (19.4%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

【東京メディア芸術学部】

宝塚大学大学院(進学)/京都芸術大学大学院(進学)/多摩美術大学院(進学)/ファッションビジネス専門学校(進学)

LaBella株式会社/A I Z株式会社/DCM株式会社/G2studio株式会社/Klab株式会社/アデコ株式会社/エイム株式会社/片山鉄建株式会社/株式会社SBIC/株式会社FunClock/株式会社NECT/株式会社S&P不動産/株式会社SPIN TECHNOLOGY/株式会社エイジェック/株式会社オー・アール・ビー/株式会社コスミック出版/株式会社三高/株式会社ジェイテックラボ/株式会社スタジオリングス/株式会社スタッフサービスエンジニアリング/株式会社ストライプインターナショナル/株式会社ゼロワン/株式会社テイクアップ/株式会社テクノエージェンツ/株式会社ハードオフコーポレーション/株式会社ピーシーデポコーポレーション/株式会社フジアルテ/株式会社ブラウニーズ/株式会社マーキュリー/株式会社マカリア/株式会社まんだらけ/株式会社リ・フォース/株式会社リーン/株式会社リンク/株式会社レアゾンホールディングス/株式会社レオスタイルジャパン/株式会社ワールドインテック/クイル・アンカ株式会社/精巧株式会社/千手クラフト株式会社/東邦ホールディングス株式会社/内藤環境管理株式会社/任天堂株式会社/ハンターサイト株式会社/ファンネット株式会社/ベネリック株式会社/株式会社アクト/株式会社シーエックスカーゴ/株式会社びびあっぷ/

【看護学部】

医誠会国際総合病院/大阪医療センター/大阪回生病院/大阪暁明館病院/大阪公立大学医学部附属病院/大阪府済生会吹田病院/大阪市立総合医療センター/大阪府立病院機構/大阪みなと中央病院/大阪南医療センター/川西市立総合医療センター/関西医科大学総合医療センター/関西電力病院/関西ろうさい病院/北野病院/協立記念病院/近畿大学病院/甲南医療センター/神戸市民病院機構/神戸マリナーズ厚生会病院/国立循環器病研究センター/JR大阪鉄道病院/順天堂大学医学部附属浦安病院/市立池田病院/市立吹田市民病院/市立豊中病院/住友病院/大和病院/高の原中央病院/谷向病院/多根第二病院/富永病院/虎ノ門病院/名古屋徳洲会総合病院/奈良県立病院機構/寝屋川生野病院/はくほう会セントラル病院/阪南病院/兵庫県立病院局/枚方公済病院/ベリタス病院/星ヶ丘医療センター/森之宮病院/八尾市立病院/淀川キリスト教病院/りんくう総合医療センター/六甲アイランド甲南病院/宝塚大学助産学専攻科(進学)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内			
		卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
東京メディア芸術	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	0人 (%)
看護	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	0人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) **〔第2号の3(3)「厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」を再掲〕**

【東京メディア芸術学部】

カリキュラムの最終決定後、12月に個別の授業担当者へ授業計画（シラバス）の執筆作成を依頼。その際、詳細な執筆要領を配布し、要領に基づいた執筆を行うよう依頼している。1月上旬にシラバス原稿を締め切り、教務委員会が全科目の記載内容の適切性をチェックし、必要に応じて科目担当者と修正のやり取りが行われた。

3月に授業計画（シラバス）が完成し、新入学生及び在籍学生全てに、新年度のガイダンスにおいてWebシラバスの形式で公表。また、大学ホームページにてWebシラバスを広く一般に向けて公表している。

【看護学部】

教務委員会にて、10月初旬までにシラバスの記入要領の見直しを行い、教授会の承認を得ている。専任教員及び非常勤講師には12月初旬に、記入要領に沿ってシラバス作成の依頼を行った。各教員から提出されたシラバス原稿を、教務委員会と学務課職員で記入要領に沿った書き方がなされているか、学生にわかりやすい表現となっているか確認し、必要に応じて修正等の依頼を行っている。

完成したシラバスは、新年度のガイダンスで全在籍学生にWebシラバスの形式で公表。新入学生には冊子の配布も行った。なお、大学ホームページにてシラバスのPDFデータを広く一般に向けて公表している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) **〔第2号の3(3)「厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」より再掲（複数）〕**

【東京メディア芸術学部】

個別の授業科目に関する学修成果の評価は、授業中の学修に対する取組み姿勢（積極性や意欲）、試験やレポート、課題等の評価指標について、全ての授業科目において、用いる評価指標の割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。なお、授業科目にはそれぞれ

れの到達目標により、評価指標の割合は一律に定めることができないため、その配分については授業科目担当教員が行なっている。

成績評価における客観的指標として、下記の方法で GPA を算出している。

- ・ 学期 $GPA = 4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学期における総履修登録単位数で除した数値
- ・ 学年 $GPA = 4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学年における総履修登録単位数で除した数値
- ・ 通算 $GPA = 4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を在学中の全期間における総履修登録単位数で除した数値

上記の式で算出された GPA を用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び学生の学習意欲の向上のために活用している。

「卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士（芸術学）の学位を授与する。

1. 主体的行動力

自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。」

上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。

卒業認定は、担当専任教員によって構成される卒業判定会議を開催し、個別の学生の学修状況を報告、別に開かれる教授会において審議のうえ決定される。

【看護学部】 [第2号の3(3)より再掲]

全ての授業科目において、成績評価の対象となる項目を全て挙げ、合計100%となるよう、各項目の評価割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。また、より厳格かつ適正に評価を行うため、2019年3月及び11月に「ルーブリック評価」、2021年1月に『臨地実習におけるルーブリック評価の実践事例と作成法のコツ』、2021年度に「カリキュラム編成セミナー（5回）」のFD研修を実施している。

上記の式で算出された GPA を用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び教学改善に活用している。

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。

・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。

・アートを生かした癒しの看護が実践できる。

・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。

・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。

卒業認定は、看護学部の専任教員によって構成される教務委員会を開催し、学生の学修状況を個別に確認を行い看護学部教授会へ上申し、看護学部教授会において審議のうえ決定される。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
東京メディア芸術	メディア芸術	124 単位	有・無	44 単位
看護	看護	128 単位	有・無	47 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：【キャンパス】

<https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/campus/index.html>

【東京新宿キャンパス】

<https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/facilities/index.html>

【大阪梅田キャンパス】

<https://www.takara-univ.ac.jp/kango/facilities/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
東京メディア芸術	メディア芸術	900,000円	200,000円	600,000円	
看護	看護	1,000,000円	300,000円	600,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

【東京メディア芸術学部】

学生がより学修を深められるよう、全ての授業科目においてオフィスアワーを設定している。また、学生は2年次以降に専任教員によるゼミに所属し、担当教員による履修指導、成績指導、授業科目以外の教育活動に参加することにより、更に大学での学びを深化させる仕組みを構築している。

【看護学部】

教員が毎週決まった時間帯に研究室を開放するオフィスアワーと、入学時から卒業まで学生一人ひとりに対して担当の教員がつくチューター制を取っている。授業の履修や学習や日々の生活や就職に至るまで、共に考えアドバイスを実施。入学すると同時にチューター（学生担当教員）との個別面談があるので、スタート時の不安の解消を図ると共に、大学生活から国家試験対策まで、きめ細かく対応する体制を整えている。また、学修面でのサポートとして学修支援室を設けており、科目担当教員やチューターと連携をとることにより、より学修のサポートを必要とする学生への支援を強化している。

《大学独自の奨学金制度》

学ぶ意欲のある学生でかつ経済的支援を必要とする学生に対し、以下の修学支援を行っている。

〔宝塚大学給付奨学金〕東京メディア芸術学部・看護学部共通
一般奨学生制度（2年次生～4年次生）

<https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/scholarship/index.html>

〔学生支援金制度〕東京メディア芸術学部

- ① 留学生日本語能力検定試験支援金 ② 資格取得支援金 ③ 一人暮らし支援金
④ 創作研究活動支援制度

https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/student_life/tuition/index.html

[スカラシップチャレンジ制度] 東京メディア芸術学部

<https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/admission/scholarship.html>

[宝塚大学特待生制度] 東京メディア芸術学部

① 入学試験成績優秀者特待生制度 ②成績優秀者特待生制度 (2年次生以降)

<https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/admission/scholarship02.html>

https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/student_life/tuition/

看護学部

①入学試験成績優秀者特待生制度 ②成績優秀者特待生制度 (2年次生以降)

<https://www.takara-univ.ac.jp/kango/scholarship/>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【東京メディア芸術学部】

学生一人ひとりが志望する業界・職業に就けるよう、早めの目標設定とスムーズな就職活動を進めるさまざまな取組みを実施している。1年次後期に卒業後の進路を視野に入れたゼミ選択面談を実施、2年次には正課授業「仕事とキャリアデザインⅠ・Ⅱ」の設置、3年次には正課授業「就職活動とキャリアデザイン」、クリエイティブ職の就職活動に必須となるポートフォリオを学び、制作する「ポートフォリオ制作演習」を設置している。2年次以降はゼミ担当教員との個別面談をはじめ、3年次ではキャリアカウンセラーとの就職活動を含めた進路選択についての個人面談(全員)を実施し、学生の希望と適性を見極めたキャリア指導を行っている。実績として、後期(10月～3月)のみではあるが、面談数631名、メール連絡849通、履歴書等の添削226件である。また、2021年度はオンラインを活用した学内企業説明会(5社)を実施した。

留学生は年次別留学生支援計画をたて、入学当初から留学生ガイダンスを実施している。留学生には、留学生センターと協力して日本で就職できる職種の理解や必須となる日本語能力についての情報提供と支援を行っている。また2年次留学生には、留学生センター主催で就職事前面談を行い、本人の進路選択の意思を確認している。東京外国人雇用サービスセンターとも連携(2022年度、セミナー1回実施)しながら、日本での就活サポートに取り組んでいる。

【看護学部】

キャリア支援課の職員が、就職・進路調査を兼ね該当年次の学生全員を対象として個人面談を実施している。学生の進路希望を確認する以外に、志望動機や自己PRできる点はいかなる点か、将来の自分像について、就職の面接で自らの考えを伝えることができるようになるまで、一人ひとり学生に対し個別・具体的なアドバイスなど支援を行っている。

また、チューター教員とも協力をし、支援が行き届くように連携を取っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【東京メディア芸術学部】

メンタルケアについては近隣のメンタルクリニックと提携し、学生の事情に合わせて医師と相談できる場を設けている。また、相談希望者が増えてきたため、相談員(臨床心理士)による学生相談日を増やし(週3日)で対応した。特に学生の個人情報には十分に配慮したうえで、必要に応じて保護者や担当教員と連携しながら学生支援につなげている。

【看護学部】

勉学、就職、経済、健康、対人関係の問題や不安など、学生の個人的な悩みにも対応できるよう、専門のカウンセラーが相談に応じる「学生相談室」をキャンパス内に開設している。チューター、学生相談室、学修支援室、保健衛生管理室が連携をとり、学生の

心身の健康等に係る支援が行えるよう体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/index.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310108900
学校名 (〇〇大学 等)	宝塚大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 宝塚大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		128人	130人	137人
内訳	第Ⅰ区分	89人	87人	
	第Ⅱ区分	26人	27人	
	第Ⅲ区分	13人	16人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				-
合計 (年間)				139人
(備考)				
※昨年4年生の学生で給付奨学生第一区分の学生が1名4月教授会で学費未納による遡及退学となっている。 ※昨年4年生で後期時点では第二区分だった学生が、卒業後税額の変更により後期第一区分に変更となっている。上記表には数に含んでいる。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	-	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	-	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。